

# 【改定】 やまなし養護教諭育成指標

## 山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

### 教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感  
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期	
各ステージにおいて目指す姿		実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している	
教員として必要な専門性	生徒指導	児童生徒理解	日々の声かけや面談により、 <b>児童生徒の気持ちに寄り添い</b> 、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 <b>観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め</b> 、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
		道徳教育	児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。	道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。
		人権教育	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。	<b>多様性を受容し</b> 、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。
		特別支援教育	児童生徒の実態を把握し、 <b>合理的配慮</b> や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	<b>医療や福祉等の関係機関との連携・協働</b> を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
		いじめ等への対応	<b>いじめ等問題行動の未然防止・早期発見</b> に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、 <b>関係機関と連携しながら、組織的に対応</b> している。
	学校運営	連携・協働	自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点をもち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。
		学校安全	学校運営における今日的課題を把握し、学校運営の重要性を理解している。	学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。	安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。
		働き方改革・業務改善	校務に積極的に参加するとともに、 <b>勤務時間を意識した働き方</b> を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続的な改善を支えている。	<b>学校組織マネジメント</b> の視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的な提案と推進を図っている。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	<b>不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等</b> 、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、 <b>スクールカウンセラー等と連携・協働</b> し、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。	
ICTや情報・教育データの利活用	学校におけるICTの活用の意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた <b>情報活用能力を育成</b> する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に利活用し、 <b>校務の効率化</b> 及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの利活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。	
自ら学ぶ姿勢	<b>教員として学び続ける</b> 重要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な研修に主体的に取り組むとともに、 <b>広い視野を持って自己研鑽</b> を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に研修に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。	自校の教育課題に対応した研修を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。	
養護教諭として必要な専門性	保健管理	学校保健安全法等を理解し、保健管理に関する基礎を身に付けている。	児童生徒の健康状態を把握し、様々な課題に対して適切に対応している。	家庭や地域の医療機関等との連携体制づくりを推進し、様々な課題に対応している。	
	保健教育	学習指導要領の内容を把握し、専門性を生かした指導を理解している。	学級担任等と連携し、専門性を生かした保健教育を実践している。	児童生徒の健康課題解決を目指した指導計画立案に関わり、実践している。	
	健康相談・保健指導	健康相談及び、これを踏まえた保健指導の重要性を理解している。	心身の健康課題の解決を目指した健康相談・保健指導を実施している。	心身の健康課題の早期発見に努め、解決に向けた健康相談・保健指導の体制を整備している。	健康相談を専門家を交えて組織的に行えるよう、コーディネーターとしての役割を果たしている。
	保健室経営	養護教諭の役割と職務内容を理解している。	学校教育目標の具現化を目指した保健室経営計画を作成し、目標達成に向けて実践している。	保健室経営計画を教職員に周知し、校内の組織運営に積極的に役割を果たそうとしている。	校内のみならず保護者や地域の関係機関と連携して、保健室経営を組織的に推進している。
	保健組織活動	保健組織活動の意義を理解している。	保健組織活動の意義を理解し、活動の企画運営に参画している。	校内の保健活動を主体的に進められるよう教職員の連携をコーディネートするとともに、学校医等との連携体制を整備している。	地域における健康課題の解決に向けた連携体制づくりを推進している。

※ 第1ステージは採用から5年目まで、第2ステージは6年目～20年目まで、第3ステージは21年目～退職までを目安としてイメージしている。